

# 中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL: 048-873-0216 FAX: 048-810-1120

学校教育目標  
知・徳・体の調和のとれた  
心豊かな人の育成

## 成長の春へ

校長 田口幸久

2階の校長室の窓からは、四季折々の移ろいが感じられます。厳しい寒さが続く毎日ですが、もうすぐ立春。空の青さも少しずつ春めき、最近木々の枝に羽を休め暖を取るために、鳥たちが多く集まって来るようになりました。鳥に詳しい3年生の女の子に聞くと、「ヒヨドリ」だと教えてくれました。

先日、鳥が卵から誕生する場面をテレビで見ました。雛が親鳥の力を得て、必死に生れ出ようとする姿は感動的です。その時、かつて、先輩校長が話してくれた「啐啄同時」(そったくどうじ)という言葉思い出しました。「啐」とは卵から雛鳥が生まれようとする時、卵の殻を破ろうと内側から雛が「コツコツ」とつつくことを言います。また、雛鳥が内側からつつく「啐」に合わせて、親鳥が卵の殻を外側からつつくことが「啄」だそうです。雛鳥と親鳥が力を合わせ、命を育む営みですが、私たち教育に携わる教師にとっても望ましい営みの例えとして取り上げられる言葉です。子どもたちの意欲や行動が「啐」、私たち大人の指導や支援のかかわりが「啄」になります。この微妙なタイミングが合わなければ、よいかかわりにはなりません。時には、卵の殻の厚さ(その子の課題)も適切にアドバイスする必要があります。さらに、手を掛け過ぎては、自立の芽は育ちません。子どもたちが自分の力で、殻を破ったと感じられるように、「啄」は目立たない行為であることも大事だと伺いました。

先日、異学年同士で交流する恒例の「さくらんぼ集会」(2、4年生は2日に延期)がありました。朝一番、6年生が真っ先に校庭に出てライン引きなどの準備。そのリーダーシップを遅く思いました。活動では下級生が嬉しそうな顔でゲームを楽しみ、エスコートする兄弟学年も頼られていることに嬉しそう。その後の休み時間。体育を終えた2年生の2人が重い荷物を持って外階段を上がっていると、横を通った上級生が、咄嗟に声を掛け、手を貸してあげる姿を目にしました。「ありがとう」と2年生。その咄嗟のかかわりとさりげない優しさに、心が温まりました。グリーンランドでは、1年生が霜柱を踏んだり手に取ったりして「冬の贈り物」を楽しんでいました。保護者の皆様から頂戴した本年度の「学校アンケート」。また、子どもたちが校庭を元気に走り回る姿や教室での笑顔、黙々と一生懸命に掃除をする姿、元気なあいさつやさりげない優しさなどを目にする度に、この1年間の「啐」と「啄」がおおよそ適切であったのではないかと考えていますが、如何だったでしょうか。改めて、保護者や地域の皆様のご支援ご協力に心から感謝しております。

いよいよ2月。6組作品展(尾間木公民館)、幼稚園・保育園児学校見学の日、最後の授業参観・懇談会、防犯ボランティア・交通指導員感謝の会、6年生を送る会、卒業関係行事の実施等、年度のまとめと準備が本格化し、各クラスでは進級や進学に向けて1年間のまとめの時期になります。「啐」と「啄」、その中身やバランスを一層吟味し、これからも教育活動の充実に努めてまいります。

…………… **中尾っ子の安全を守る『防犯ボランティア』に皆様のお力をお貸しください!** ……………

中尾小学校学区には、第2産業道路他、車の多い危険な大通りや抜け道が多くありますが、お陰様で、今年も大きな事故もなく、中尾っ子たちが登下校することができました。子どもたちの「安全・安心」は、学校の必須課題です。これからも皆様の見守りをどうぞ、よろしくお願い申し上げます。また、児童の安全を守る「防犯ボランティア」が減少し、安全確保の上で困っています。無理のない範囲で結構です。ご自分が、または周りにいらっしゃいましたら、学校までお知らせください。保護者、地域の皆様、いつも本当にありがとうございます。

